

1980年 ゴールドウイング (GL1100) インターステート

ゴールドウイング (GL1100) には、技術的な変更点以上に多くの重要な新機軸が導入されていました。ゴールドウイングの持つロングツーリング性能に注目したツーリング用のアフターパーツメーカーによる市場の活性化によって、Honda のエンジニアも、フルドレスアップしたラグジュアリーモデルの開発を考えていました。これにより、ゴールドウイングとして初めてフェアリングやサドルバッグ、トランクを標準装備とし、ステレオサウンドシステムをオプション設定とした革新的なインターステートが生み出されました。こうして完全な長距離ツアラー仕様のゴールドウイングが誕生しました。



1980年 GOLDWING (GL1100) INTERSTATE

1982年 ゴールドウイング (GL1100) アスペンケード

その後間もなくHondaは、アスペンケードの登場によって“ラグジュアリーツアラー”という先進的なコンセプトを発表。このモデルはスタンダード仕様に加え、液晶メーターやステレオ、CB無線などの快適装備、さらにパッセンジャーバックレスト後方の収納スペースなど、使い勝手を考慮したさまざまな上級装備を搭載していました。



1982年 GOLDWING (GL1100) ASPENCADE

1984年 ゴールドウイング (GL1200) 3代目モデル アスペンケード

新型4気筒エンジンのパフォーマンスと上質さを最大限に追求したモデルが誕生。1,182cc の大排気量が生み出すパワーとトルクを向上させ、スムーズさと低回転域から力強い加速を実現しました。また、油圧式バルブ調整機能の採用によりメンテナンスフリー化も実現。同時に車体にも改良を施し、大型車ながらクイックな運動性能も追求しました。ロングツーリングではこれまで以上に優れた快適性を実現しました。



1984年 GOLDWING (GL1200) ASPENCADE